様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ５ 月 ３１ 日現在

機関番号：３７４０２
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2014～2016
課題番号：２６５８０１２３

研究課題名（和文）AntConcを使った英作文の自己分析と自己添削法の開発

研究課題名（英文）Using AntConc to Develop Self Diagnosis and Correction Skills for Second Language Writing

研究代表者
堀　正広（Hori, Masahiro）

熊本学園大学・外国語学部・教授

研究者番号：２０２３８７７８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、英作文の添削をネイティブ・スピーカーや英語教師に頼るのではなく、無償で提供されているコンコーダンサーソフトウェア―AntConc3.2.1.0を使って、自分自身で主体的に英作文を改善する方法論を確立し、その有用性を実証することである。その方法論を確立するために、英語コーパス言語学の知見と学習者コーパス研究の成果を援用する。

研究成果の概要（英文）：　The purpose of this study is to develop self diagnosis and correction skills of writing for learners of English as a second language by using AntConc, a freeware concordancer software program.

研究分野：英語学・文体論・コーパス言語学

キーワード：英作文教育　アクティブラーニング　自己添削　自己診断　AntConc　British National Corpus　自由作文　コーパス

１．研究開始当初の背景

これまで英作文の添削は、日本人やネイティブ・スピーカーの教員によって行われてきた。教員が受講者の英文の添削を行い、受講者の共通した問題点を指摘し、添削された英作文を受講生に返却するという形式である。英作文の授業に関しては、アクティブラーニング、つまり「主体的に学ぶ」ということが困難であった。そのようなこれまでの英作文指導に対して、「主体的な」英作文学習方法の開発が本研究の目的である。英作文の添削において、「主体的に」というのは、 自分の英作文を自らが、客観的に分析し、発見と気づきによって自分の英作文を自分自身で添削していくということを意味する。そのためには次の2つのことが必要となる。1つ目は、自分の英作文がネイティブ・スピーカーの英文とどう違っているのかを自己診断すること。2つ目は、どのような点に注目しながら自分の英文を自己添削していくかというチェックポイントを知ることである。本研究はこの 2 つの点からインターネット上で無償提供されているコンコーダンサー AntConc を使って、英作文の自己診断と自己添削法を構築する。

２．研究の目的

本研究の目的は、英作文の添削をネイティブ・スピーカーや英語教師に頼るのではなく、無償で提供されているコンコーダンサーソフトウェア—AntConc3.2.1.0を使って、自分自身で主体的に 英作文を改善する方法論を確立し、その有用性を実証することである。その方法論を確立するために、英語コーパス言語学の知見と学習者コーパス研究の成果を援用する。また、その有用性を 明らかにするためにネイティブ・スピーカーの添削英文と比較する。さらに、一般的な英作文の授業に比べ、本研究による英作文自己添削法による授業は、受講者のまた、達成感や動機づけの向上にどのように影響するかをアンケート調査によって明らかにする。本研究は、英語教育関係の学会で発表する。

３．研究の方法

英作文は、日本人の英語教師や英語のネイティブ・スピーカーに添削してもらう方式が一般的で、 英作文の書き手である学習者が自ら添削するというやり方は一般的ではない。しかし、コンコーダンサーであるAntConc を使って、自分の英作文のワードリスト、コロケーション、n-gram などの機能を使って、自分の英文とネイティブ・スピーカーのデータと比較して自分の英文の問題点を知る。学習者コーパスで指摘されている日本人の英語の特徴、冠詞の使用や使役動詞 make の使い方、句動詞の過少使用等をキーポイントに自分の英作文をチェックしていく。必要に応じて英米人の書き言葉コーパスである British National Corpus (BNC)や Corpus of Contemporary American English (COCA)と比較しながら自分の問題点を分析していく。この自己分析から自分の英文の問題点だけでなく、英文法に対する知識も次第に増えていく。自分の英文の問題点に気づいたら、今度は自己添削、つまり修正加筆を行う。その際には、BNC や COCA をうまく使いながら多様な表現を学び、自分の英文の文脈にあった表現を見出し修正していく。このような自分の英文の自己分析や自己添削において重要なのはその手順である。本研究で開発されるチェックポイントの順番、そのやり方に沿って英文を分析、添削していくことである。学習者の英語のレベルに関わりないチェックポイントマニュアルと上級英語学習者に対して作成されるチェックポイントマニュアルの両方を作成する。このチェックポイントの項目や順番は、学習者コーパスにおい

て研究された、日本人英語学習者の特徴や問題点を踏まえ、ネイティブ・スピーカーの添削情報を加味して作成される。

４．研究成果

これまで本科研の代表者は、編者の一人として2014年に出版した『英語コーパス活用ガイド』(赤野一郎・堀正広・投野由紀夫編、大修館書店)において、本研究のパイロット・スタディ的な論考「AntConcを使った英作文の自己診断と自己添削法」を執筆した。本科研代表者の授業においてもこの方法論を実践し、その後受講者のアンケートを取り、この方法論の有効性と受講者の達成感を調査し、有効性を確認した。今後の問題点として、このような自己添削の方法を日常的に行えるようにすることと、これを英作文だけでなく他の英語の技能、たとえば読解力の向上へもつなげていく方略を工夫する必要がある。また、JACET(大学英語教育学会)において、シンポジウム「英語教育にコーパスを活かす」を行い、本科研の成果を発表した。さらに、他の共編著者(豊田昌倫・今林修)と共に『英語のスタイル: 教えるための文体論入門』(研究社)を刊行し、本科研の成果として「アカデミック・ライティングと科学論文の英語の文体」を共著で執筆した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　5 件）
①堀正広、教と養、読書と不立文字、日本国際教養学会論集、査読有り、3 号、2017、90-93
DOI:http://jaila.org/journal/articles/vol003_2017/j003_2017_089_sa.pdf
②堀正広、小説における副詞研究の多様性、英語語法文法研究、査読有り、23 号、2016, 53-68
③堀正広、大修館、歴史社会言語学入門の書評、英語教育、2015、92-92
④ 堀正広、Identity と Creativity、日本英文学会第 87 回 Proceeding、査読有り、2015、88-89
⑤ 堀正広、ディケンズの言語・文体における創造性、ディケンズフェローシップ年報、査読有り、38 号、2015．72-73

〔学会発表〕（計　9 件）
①堀正広、アカデミック・ライティングと科学論文の英語の文体、技術英語表現法実践報告会、2017 年 1 月 23 日、東京理科大学
②堀正広、シンポジウム「英語教育にコーパスを活かす」、JACET (大学英語教育学会)、2016 年 9 月 2 日、北星学園大学。
③堀正広、シンポジウム「文学の言語研究への貢献：辞書から CD-ROM，Online,そして Dickens Lexicon Digital」、2016 年 6 月 25 日、安田女子大学
④堀正広、シンポジウム「理系の教養とは」、2016 年 3 月 13 日、日本国際教養学会、東京理科大学
⑤堀正広、シンポジウム「英語表現および英作文教育」、立命館大学大学院言語教育情報研究科・国際言語文化研究所、2016 年 2 月 6 日、立命館大学
⑥堀正広、ことばとアイデンティティ、招待講演、立命館大学大学院言語教育情報研究科講演会、2016 年 2 月 5 日、立命館大学
⑦堀正広、シンポジウム「副詞を巡る諸問題：語法文法、辞書記述、文体」、2015 年 10 月 24 日、龍谷大学
⑧堀正広、AntConc を使った英作文の自己診断と自己添削法の開発、JACET (大学英語教育学会)、2015 年 8 月 30 日、鹿児島大学
⑨堀正広、シンポジウム「文体論に基づく英語教育再興」、日本英文学会、2015 年 5 月 24 日、立正大学

〔図書〕（計　5 件）
①堀正広（共編著）、研究社、英語のスタイル：教えるための文体論入門、2017、310
②堀正広（編著）、ひつじ書房、コーパスと英語文体、2016、220
③赤野一郎、堀正広、投野由起夫（編著）、大修館書店、英語教師のためのコーパス活用ガイド、2014、242
④ 堀正広・赤野一郎（監修）・投野由起夫（編集）、コーパスと英語教育、ひつじ書房、2015、250
⑤堀正広・赤野一郎（監修）・深谷輝彦・滝沢直宏（編集）、コーパスと英語文法語法、ひつじ書房、2015、246

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
堀正広 (HORI, Masahiro)
熊本学園大学・外国語学部・教授
研究者番号：20239778

研究者番号：

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：

(4)研究協力者
(　　)